

サカタニ・友の会

2005年・第8号・Vol.73

とんからりん

2005年8月1日・集・西・楽 (株)サカタニ

075-561-7974fax 075-561-6710

ファミリーマート・サカタニ京阪七条店 075-561-0162

ホームページ・URL <http://www.sosake.jp>

会員の皆さま。集・西・楽・(株)サカタニ

朝粥食べておシャベリ会

8月も定例とおり第3日曜にいたします。
21日(日)9時スタート・終了10時30分
8月21日は中国楽器「二鼓」の演奏を予定して
います。お粥も中国粥にしようかと計画中で
す。必ず前日までにご予約をお願いします。
参加費 200円(会員さん)300円(会員以外)

あの8月15日・この60年は まだ!?! ~もう?!

敗戦の遺暦に考える

今年の8月15日は1945年(昭和20年)から60回目の敗戦記念日、敗戦が遺暦になる。その日をおぼろげにでも覚えている人は日本人の少数派になった。

8月6日原爆投下は疎開先炭山で3日毎に配達される新聞で知った。「特殊爆弾が広島に落とされた」記事の中に白い服を着ていた人は助かったと書いて有った。工場や建物も防空上「黒」に塗っていたのに「何で白や」と子供心に思った。祖父の病気が重くなり「京」に帰っていた8月15日正午に重大放送があるとのこと、看病で家人は手を空けられず私は一人でだけ店先にある「レジオ=ラジオ」前で待った。正午、天皇陛下のお声が放送され始めたが、恐れ多くも玉音は6年生には難しく何のことが理解ができず放送後外に出た。近くの新聞屋のおじさんに聞くと、日本が戦争の負けたと言った。「神風」が吹くはずだったのにといいながら、病床の祖

父に日本の敗戦を告げた。祖父は「陛下に申し訳ない。陛下がお可愛そう」と声を上げて泣いた。その祖父喜一郎は17日後亡くなった。

8月15日雲量4割、暑い日だった。この日を境に日本は激動激変する。天皇陛下は[神]から[人]に。[鬼畜米英]は「覇者」になった。ララ物資(食料支援)に助けられ、DDTのお陰で「しらみ」から解放、子供たちは手づくり布製のボールでベースボールを楽しんだ。1947年(昭和22年)戦争放棄、基本的人権が定められた**憲法が5月3日施行**。戦争で苦しんだ大多数の国民は9条に歓喜した。

笠置しず子の「東京ブギブギ」が流れ、天才少女美空ひばりが真似をしていた。野球が大流行、貞教校の校庭で「晴鴨楼」を定宿にしていた「灰田勝彦」がピッチャーで野球をしていた。(中学時代)

中国国内戦で「八路軍」が揚子江渡河に成功、間もなく「中華人民共和国」が建国。朝鮮戦争が起り警察予備隊が誕生。全面講和、単独講和で世論が分かれ、安保とセットで単独講和が結ばれた。(高校時代)

街頭テレビで力道山の活躍、皇太子殿下のご成婚を機会に「テレビ」時代に入った。君の名は、鐘の鳴る丘、赤銅鈴之助などのラジオドラマは遺物になった。評論家大宅宗一が「電気紙芝居」と評したテレビが今は電話まで占領した。もうその後は書かない。物は溢れている。金もある。欲しいものは何でも手に入る。豊かな日本になった。「もう」確かに日本は戦後ではない。敗戦は「もう」60年も前のことだ。**戦争を知らない大人たち**。貧しさや飢えと無関係な子供、思考がビミョウなことで錯乱する大人が増えている。そして多くの日本人は60年以上前の戦争に「もう」という言葉の免罪符をつけた。

アジアの多くの人達は「まだ」60年と先の戦争のことを忘れていない様だ。原爆を落とした国は「もう」スッカリ忘れてる。だが「まだ」核の全廃は程遠い。おとなしい子供であった私、国民学校三年生の時一度先生に叩かれた。おそらくその先生は翌日に「もう」忘れられただろう。私は「まだ」忘れてない。アラブとユダヤ、アジアと日本。被害者と加害者の「まだ」と「もう」の間は大きい。「まだ」「もう」がドッキングすれば世界平和だ。

サカタニ友の会の

お約束

年会費 1200円(4月~翌年3月)年途中ご入会の場合も会費は同じ

入会時・年度内末に500円買物券各一枚。・本年9月まで各月50円買物券2枚進呈。お買物(2Fのみ)100円=1ポイント。(配達のお方は月2000円以上お買上200円)300ポイントで300円サービス券をお渡します。

「催し」「特売」案内「ポイント割増セール」もします。

「試飲会・試食会」「蔵見学」の優先案内、会員様への配達、商品の充実に努めます。情報誌「とんからりん」を9月までは毎月、以後は隔月に1度お届けします。

未成年の方、ご同業の方、当社の事情で入会をお断りする場合があります。

1Fファミマでの友の会カードでポイントは付きません。ファミマ・クラブお入り下さい。

ヨシィちゃんのヒトリゴト

分れ道一步違えばその二・

へそ お 臍の緒

祖母が亡くなって、住んでいた吉田の家(天理教理樂分教会)の土蔵の中を妹達と整理していた。20年近く会長として住み色々な物が七条の家から移してあった。根がキッチリとした人だったが、死を予測していたように片付けて有る。

祖母は、生前何時も何所へ行くときもヒョイと「信玄袋」を下げて歩いていた。その姿は、少し前かがみで足運びは小幅、忙しげだった。

それとは別の古びた信玄袋が見つかり開けると印鑑と紙包みが出てきた。印鑑は登録していた実印、紙包みの中から小さな木箱、上には「喜郎へそのを・×年×月×日生」と書いた紙が付いていた。

おぼろげに記憶の有る祖父[喜一郎]の筆跡で書かれている。中には、「スルメの足」のような物が入っていた。臍の緒だったが、その時は何故か感動は無かった。

祖父に「僕の名はなんで義郎なんや」と聞いたとき、酒谷家は代々[義左衛門]お前は14代目の跡取りやから「義」の字をつけたと教えられた。幼くして死んだ祖父の兄は「義太郎」だった。

×年×月×日は私の誕生日だが戸籍では○月○日となっている。

×月×日の喜郎が公的誕生日○月○日には義郎になって届けている。×と○の間に何が有ったのだろう。祖母の死は私が42歳のその時、それまで「へその緒」の存在も

「喜郎」の名も聞いたことが無い。42歳になって今更父に理由を聞いても仕方がない。結果今の義郎が自分だと割り切り、責任者である父に確かめる事をしなかった。

26年前その父も亡くなり真実は判らない。17歳の父と16歳の母の間で出来た子供、恐らく祖父母は自分達の子供として育てるつもりで「喜郎」としたのだろう。それを阻み実父一郎の長男「義郎」にするように薦めた人がいたと推測する。その人物は祖父母が「神」のように崇拜していたお方だと思う。只、推理でもう今はどうでもよいことだ。喜郎と義郎では運命は大違い、喜郎であれば、今の私は全く違った世界で生きているに違いない。これは私と言う人間の最初で最大の「分かれ道」だったが、私が決め

言うしか表現ができないだろう。

今年3月[へその緒]で結ばれていた88歳の「生みの母」と枕を並べて一夜過ごした。

2人にとっては実に70年ぶり。翌朝「良く寝られた」と横浜弁で笑顔した母は私に良く似ていた。

否、私が母に似ているのだ。異父弟2人妹1人。異母弟1人妹3人。全員元気、私は幸せな男だ。

松尾芭蕉が

ふるさとへそのおになく
「古里や臍の緒に泣としのくれ」

とよんだ心境にはヤヤ遠い

ヨシィちゃんである。

駱駝はそろそろ起きるかな？

先月号の『とんからりん』で紹介していただいた私の70年代青春小説『駱駝はまだ眠っている』が、7月初旬にやっと発売されました。2年かけて書いた400枚の原稿を、かもがわ出版に持ち込んだのが3月。わずか4か月で本のかたちになろうとは想像もしていませんでした。今までにいろいろな文章を書き、同人誌や共著、自費出版で細々と出してきましたが、一冊の本にして出版社に出していただくことは、私の最大の夢でした。この時勢、わざわざ本にしなくても、パソコン上で発表して読んでもらえばいいといわれることもあります。私はやはり本そのものの形や手ざわりが好きで、小説はページをめくって一行ずつ読んでいくものだと思っています。今回、出版社に無理をいって表紙の装丁やカバーデザインを友人のブックデザイナー、田中淑恵さんをお願いしたのも、本そのものの美しさにこだわったからでした。『ほんやら洞』や『八文字屋』店主でもある写真家、甲斐扶佐義さんの70年代の写真集『出町』の中から、一枚の

少女の写真をお借りし、今は40代になっておられるモデルの女性にも許可を得て、何度も打ち合わせや校正を重ねながら、理想通りの本に仕上がりました。いよいよ発売されると、30年前に『駱駝館』にいた人たちや、この小説を発売前に読んでくれていた友人たちが40人も集まり、7月17日に集西楽でパーティを開いてくれました。この集西楽でも、多くの方々为名前も知らぬ私の本をお買い上げ下さり、本当に嬉しく思っています。ありがとうございます。

今、「駱駝はまだ眠っている」(かもがわ出版・1680円税込み)は、京阪神の大垣書店全店、ブックファースト、丸善などの店頭で販売されています。著名な作家やベストセラー本に交じって、私の本が2列に平積みされているのを見ると、不思議な気持ちです。けれど本は売れなかったら、3か月で返本されてしまいます。眠ったままの私の駱駝がそろそろ起きるように、引き続き応援をお願いいたします。

(砂岸 あり・酒谷佳子)

もよく、薄くなっても焼酎の水割りよりズート旨い。蒸留して味が飛んだ酒より醸造酒の味の深みと強さを楽しめます。お試しあれかし。

(注・サカタニの酒で無いとダメ！)

日本酒を
ロックで飲も

ロックと言うてもロックンロールを聞いて飲むのでは有りません。オン・ザ・ロックです。近頃私は氷を半分入れたピヤーグラスに日本酒を注ぎ飲むのです。香りも口当り

犬には序列理解させる

この題の記事が読売新聞 7月19日に載っていた。
 要約するとフレンチブルドッグ「ボブ」は家族の気持ちを癒してくれる一家の5番目の家族。だが5年前は怪物のようで、昼は大人しいが夕食後眠気からかイラつき歯をむきだして家族に襲い掛かる。救急外来へ駆け込むほどの怪我をした家族もあり、処分を考えたとある。
 そのボブを診断した井本動物病院院長の話では、群れの動物である犬は、甘やかすと俺様が一家のリーダーと思ひ配下の人間を統制しようと攻撃的になる。・・・
 生後10週までに親兄弟と離れペットショップに並んだ犬は、喧嘩の仕方や日常的な振舞いを学べず問題を起こしやすい。・・・家庭での序列理解させることが重要だと。
 読んでいて何か近頃頻繁におこる子供たちの事件に共通の問題点を感じた。
 少子化で兄弟喧嘩もする相手が少ない。食事は一人のときが多い。終われば子供部屋で孤独を愉しみながらゲーム興じる。欲しいものは直ぐ買ってもらえる。そんな子供たちの生活環境が、かえって子供から人間性を奪っているようだ。
 核家族で何時でも自分(子供)が中心にいる。親が子供に合わせているような家庭も多いらしい。わがままで、辛抱ができず、喧嘩する勇気も

無く仕方もしらないから、「いじめ」る。大抵は大勢で少数を「いじめ」ているようだ。

僕達の子供時代でも、今のように陰湿ではないが『イジメ』はあった。イジメられた者は、相手が強い奴でも、気のあった友人と手を組んで対抗した。時には「先生に言うタンネン!」で大概はおさまった。当時の先生は「拳骨」という兵器をチラチ

ラさせていたから。三步さがって師の影を踏まず、先輩と後輩、長と幼、親と子という過去の序列は軽視され、平等が優先される。親を殺す&子を殺す親、些細な事がガマン出来ずキレて暴力的になる人間が増えている。「ボブ」は治った様だから、動物病院をキレル人の治療施設にすれば案外早くキレル人が減るのでは無いだろうか。

8月の集西樂・見どころ2 ギャラリーカフェ集re

8月21日まで 桃谷好英「素晴らしき折り紙の世界」展を催しています。新聞に取り上げられたこともあり、毎日折り紙愛好家の方々がお越しになっています。桃谷先生は折り紙の世界では特別の存在で、その作品は日本はもとより、世界的にも高い評価をされています。100冊近くの折り紙の本を出版、それは外国語(英、仏、韓など)に翻訳されています。なかでも顕微鏡の世界でしか見ることが出来ない細胞膜やDNAなどの作品は桃谷先生ならではのものです。桃谷先生の著作も何点が販売しております。

8月23日(火)からのギャラリー喫茶の展覧会は、アメリカやアイルランドなど海外でも大変高い評価を得ている、ジロー・オオクラさんのクスノキを使った 現代木彫芸術の展覧会です。その作品はセントルイス美術館やスミソニアン・フリーアノサッカー美術館、プタペス

ト美術館などがコレクションしています。日本国内においても数々の賞を受賞、繊細で、豪放なその作品をお楽しみ下さい。(作品販売予定)是非ともご覧ください。

お盆休業のお知らせ

2階の集西樂は下記の日は休業です

8月14日～16日
 ○ファミマは無休です。

半兵衛麩(はんべえふ)
 〒605-0903 京都市東山区
 問屋町通り五条下上人町433
 (五条大橋東南側)
 075-528-0008・代表
 Fax075-561-0748
 URL <http://www.hanbey.co.jp>
 E-mail・info@hanbey.co.jp

半兵衛麩・紹介は4ページに

お知らせ 8月の「催事」など

桃谷好英・
素晴らしき
折り紙の世界展
 ~8月21日迄
 時・10時 ~ 18時まで
 鑑賞無料 集re 喫茶ルーム
 (貸切時入場不可)

桃谷好英著作本販売中
 京都新聞に7月27日に
 記事が掲載されました。

14回 **音の風** 音楽茶会
 日・8月28日(日)19時30分~
 会費・500円 飲み物代は別途
 ・集re 喫茶ルーム

楽々ホール
サマーセミナー&懇親会
会社法大改正講師・税理士早川嘉美
 8月12日17時~18時20分
 会費5千円(セミナーのみ2千円)

・集re 喫茶ルーム・入場無料
ジロー・オオクラ
 「Hamadryad - 木の精」展
 クスノキを使った現代木彫芸術

大田 修
シークレットライブ夏
 8月28日(日)開催
 14時~18時(開場18.30)
楽々ホール
 前売2500円・当日3000円

地図カンバン物語 第11話

京料理

道楽

京麩

半兵衛麩

この部分本紙には
写真掲載・hpは無し

地図カンバン物語も終わりに近かずきました。看板には社寺などの他観光の方々から所在地を訊ねられる有名な「お店」を書き掲載してあります。京都に御住いの方はご承知のお店ばかりです。その内、道楽さんと半兵衛麩さん両店のパンフレットなどを紹介しました。地方のお知り合いなどから両店のお問合せの際ご参考になればと思ひ掲載しました。両店さんご協力有難うございました。

る京のお座敷にてごゆっくりとお楽しみ下さいませ。

この部分本紙には
写真掲載 hpは無し

京料理・道楽&道楽楼・佗屋

京都・東山、清水寺をはじめ六波羅密寺、知積院、方広寺(豊国神社)、三十三間堂、東福寺など数多くの名刹が集まるその一角に、京料理「道楽」はかつての門前町の風情を残し、暖簾を守り続けております。

創業は今から遡ること約370年、江戸時代・寛永年間で、石田光成の軍司として知られる島左近の邸宅跡に茶店を開いたのが始まりと言われ、京都市より歴史的意匠建造物に指定されております。又、豊国神社や東本願寺など近くの神社へ参拝する人々が立ち寄って一息つくのに好適だと賑わいをみせていた当店も、五代目が青竹の料理「知久也」を考案した頃より、料理屋として名を高めることとなりました。

更に、宮内庁御用達として、ますますその名が知られるところとなり、お寺さんや花街・西陣の旦那衆などおおくの常連さんで、賑わうこととなったのでございます。

その寛永年間より伝統が、いまなお脈々と受け継がれており、お料理におきましても季節の地のものをふんだんに用い、昔ながらの京都の伝統を踏まえながら、新しい時代の感覚を取り入れたお献立を心がけておりますので、京の四季それぞれの

この部分本紙には
写真掲載 hpは無し

京麩・半兵衛麩

室町時代に中国へ渡った修行僧によって「麩」は伝えられ、肉食を口にしないなどの厳しい戒律の禅僧の貴重なたんばく源として育まれてきました。

江戸時代中期(1689年元禄二年)

初代半兵衛が京都で麩づくりはじめ、以来材料にこだわり、時代の変化とともに麩を発展させながら、丹精を込めて伝統の味わいを守りつづけております。

時代が変わっても[麩屋]の生業とともに当主十一代目まで正しい商いの心はシッカリと受け継がれ、代々「先義後利(義を先んじて、利は後にする)」の家訓を守り、その精神は半兵衛麩の誇りとなり、経営理念や社は「感謝」と同様に全従業員の基本姿勢になっています。

江戸時代の書物「食物和解大成(元禄11年刊)」にも薬用として効能があると記載され、今も健脳食として研究の対象とされています。

長い歴史の中、「麩」は宮廷や寺院の中で育まれた後、懐石料理や法要の料理として町衆にも食されるようになりました。

天保年間の茶会記には菓子として「ふのやき」が多く記載され、当時の茶人にも好まれていたことが伺えます。

当世料理(嘉永6年刊)にも登場しており、いつの時代の食文化にも欠かれない食材であることがわかります。古くは、粗い「挽き割り小麦」を原料にしていた「麩」も明治以後産業の発展の伴い、きめの細かな精白小麦ができるようになると、九代目虎治郎は、新たな製法を研究し、内国博覧会で数々の受賞をしました。その技術は今日の美味しい麩づくりの基礎となり、その味わいをますます磨き品質の向上を図るため技の研鑽に努めつづけることで、今も多くの賞を頂いております。

業界内でも半兵衛麩が唯一麩の研究に関しての教育部門で受賞しております。

昭和初期、戦中戦後の食糧難の時代、小麦粉が統制品になり自由に買えなくなりました。

十代目四郎之助は、闇市の小麦粉を使って「麩」をつくり、「麩屋」としての暖簾を汚すことは麩屋ご先祖に失礼だと、やむなく麩をつくらず、商いの正道を守りました。

半兵衛麩は、麩の長い歴史に育まれ、その時代とともに歩み発展し、今日も全国のお客様にご愛顧いただいております。

半兵衛麩所在地・電話番号
等は3ページに有りますこの部分本紙には
写真掲載 hpは無し〒605-0908
東山区正面通本町西入075-561-0478fax075-561-0558
<http://www.dourakuro.jp/>